

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	116健康を支える保健・医療の充実		
施策のねらい(めざす姿)	すべての市民が、生涯にわたって健康で明るく元気に暮らしています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	健康福祉部次長
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	マネージャー氏名	齊藤 薫

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	予防接種、各種健(検)診、健康相談及び健康教育等を実施率を向上させて医療費や、扶助費などの増加を抑制していく。	③改革・改善内容	予防接種や各種健診等に関する国の制度改正等に、迅速に対応するとともに、市独自の事業であるフッ化物洗口は、毎年、実施学年を1学年ずつ増加させ、6年生まで継続させる。
②①に基づく取り組み結果	新たな予防接種事業の開始、各種健(検)診・予防接種等の周知、未受診者への受診勧奨等を行い概ね受診率の向上が図れた。予防接種により、伝染の恐れのある疾病の発生及びまん延も防止が出来たこと、検診においては早期発見・早期治療につながったことから医療費の増加抑制につながったと考える。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	一般市民	意図(対象をどうするのか)	健康に関する必要な情報を入手できるとともに、正しい知識を習得し健康に良い生活習慣を身につけ、健康の維持・増進を図る。
②施策の概要	市民が健康づくりに取り組めるよう、健康相談・健康教育、各種健(検)診、フッ化物洗口等の実施及び健康情報の周知する。また感染症の発生及びまん延を予防するために予防接種を実施する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化が進み、生活習慣病で受診する人や亡くなる方が今後も増加することが予測され、医療費の増大や介護保険利用者の増加が見込まれることから、生活習慣病予防及び健康づくりへの取組がますます重要となる。また、高齢化による退職者の増加、経済状況による事業者等の検診実施の減少により、市の検診受診者の増加が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25～26年度の施策の成果	新たな予防接種事業(水痘・高齢者の肺炎球菌)を、国の制度の対象者を市独自に拡大し開始した。乳がん、子宮がん検診については、節目年齢の方(国の規定に基づき)や、平成21年度～24年度未受診者の方には、無料検診の通知・実施、その他の各種健(検)診についても周知や未受診者への受診勧奨を行い概ね受診率の向上が図られ、病気の早期発見・早期治療に繋がることができた。さらには、平成26年度より小学校でのフッ化物洗口事業を開始した他、健康教室・相談等を通して多くの市民の健康づくりへの取組が出来るよう啓発することができた。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値(27年度)
	i	平均寿命(男)	歳	—	—	—	延伸
	ii	平均寿命(女)	歳	—	—	—	延伸
	iii	自分の健康に満足している率(市民健康意識調査)	%	—	50.7	—	53.0
③基本事業成果指標	iv	乳児死亡率(出生千対)	人	0	1	1	減少
	i	健康のため食事に気をつけている市民割合	%	—	—	—	78
	ii	運動習慣者の割合	%	—	—	—	維持
	iii	自分に合ったストレス解消法を持つ人の割合	%	—	—	—	維持
	iv	フッ化物洗口実施者数	人	2,017	2,012	2,939	3,500
	v	かかりつけ医の役割を知っている人の割合	%	—	—	—	増加
	vi	病院・一般診療・医療機関数	箇所	63	64	調査中	現状維持
	vii	市内への救急搬送割合	%	61.6	59.5	61.1	現状維持
	viii	予防接種率(BCG)	%	94.4	89.4	100.0	現状維持
ix	各種健(検)診の受診率(胃がん検診)	%	15.9	15.4	16.1	20.0	
④施策の事業費	平成25年度決算	平成26年度決算	市民一人あたり事業費(26年度決算)	平成27年度予算			
事業費(千円)	453,260	527,380	(単位:円)	4,854円	585,495		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	予防接種や各種健(検)診制度の改正は、多々あり、急遽ということもある。予算も含め、迅速な対応が必要。正しい情報の提供、各事業の意義を十分に理解してもらう必要がある。受診率の向上の他、高齢化や社会的状況により、受診希望者の増加が見込まれることによる検診実施体制をどうするかが今後の課題である。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	基本成果指標における平成27年度目標値と現状を比較した時、概ね達成している。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する事務事業	フッ化物洗口事業		
④上記方向性の説明	歯と口の健康を守り、生涯自分の口から食べることが今後の高齢化社会で、健康寿命の延伸につながるため。		